

明けましておめでとうございます。

2017年の世界はメキシコとの国境の壁を作ることから始まり、トランプ一人の発言に左右され、外国人には入国禁止の大統領令を出すとか無茶な発言の連続です。北朝鮮の核実験とロケット発射に対する挑発的な発言も目立ち、今にも戦争が起きそうな気配が続き、危なかつしいことこのうえもありません。最近ではイスラエルの首都をエルサレムと認め、アメリカ大使館をエルサレムにするという突飛な発言が飛び出し、国連安保理を巻き込んで大混乱です。賛成しないところには米国の支援を引き揚げると言って恫喝したが、国際社会は一方的な米国の主張には賛成できないと圧倒的多数でエルサレム首都決定撤回決議案を採択した。このようにトランプ一人に振り回された1年でした。

また、一方日本では小池都知事の発言でジェットコースターのごとく政界全体が上がったり下がったりの繰り返しとなった。行ったり来たりしたものの結果は前と同じことになり、時間だけを浪費したような感じです。経済情勢はインバウンド景気により、GDPは連続して伸びており、景気は良いとの判断ですが、地方や中小企業には好景気の感触はない。大企業を中心とした株価や一定の地域の土地はバブルの様相を呈しています。一方、貧困世帯が多くなって、こども食堂が賑わいを見せています。少子高齢社会と格差拡大は留まるところが見えません。いつバブルが弾けるか、お友達安倍内閣に反抗したら弾かれてしまう。そんなこんな不安要因が渦巻く混迷の2017年は暮れたが、2018年の世界はどのような年となるのか？2019年4月30日に天皇が譲位して5月1日に年号が変わり、皇太子が天皇に即位します。そう変わらないと思われませんが、日本の大きな転機になるのではないかと感じます。

東芝の債務超過の会計処理を巡る大混乱。神戸製鋼の品質虚偽表示問題。日産・スバルの検査資格者でない者が検査していた問題。私鉄線での架線切れによる停電で列車の停止。純国産の三菱重工のMRJジェット旅客機の度重なる納期延期。東海道・山陽新幹線の台車に亀裂が見つかった問題等々大企業の現場がおかしくなっている。団塊の世代の引退による技能の伝承不足だけでは説明できない。仕事に対する取組む精神がたるんでいるのであろうか？

先月の14日に平成30年度の与党税制改正大綱が発表された。個人の増税が相次ぐ一方、企業向けの減税措置が多く、差し引きで年間約2800億円の増税となる。「税は政治が決める」との理念から与党が財務省などと協議しながら議論を進めるのが建前だが、首相官邸の力が強いのでその意向に沿った改正案となった。最大の焦点だった所得税改革では給与所得控除に手を付けたことは大きい。これから所得税の増税時代に入る一歩であろう。